

令和3年2月2日

# 新聞奨学生の実態

東放学園音響専門学校 音響芸術科 伏見紅蘭

## 1 研究動機

現在、私は新聞奨学生として、大変ながらもそれなりに楽しく過ごしている。新聞奨学生を始めたタイミングで始めた Twitter で、知り合った新聞奨学生のほとんどが口癖のように「辞めたい」と言っていたが、自分の中では辞めたい人がほとんどなのかと、とても驚いてしまった。親にやってくれと言われた人も少なからずいるのだが、自分でやると決めたはずの新聞奨学生をどういった理由で辞めたいのか、学業との両立が大変なのか、時間に余裕がないからなのか、制度自体に不満を持っているのかといった『辞めたい理由』がとても気になった。

## 2 検証方法

今回は、Google フォームのアンケート機能で回答を集計した。アンケートは Twitter を使用したり、知り合いの新聞奨学生に個人的に声をかけたりして拡散した。今回は約 35 人の方に回答していただきました。

## 3 予想

学校、販売店、移動距離、奨学会に分けて予想した。

取りたい授業が取れないというのは、他の新聞奨学生も言っている。夕刊があるので午後は入れられない、午前は午後に入れられない必修の授業が入っているため、私も時間的に取りたくても取れない授業がたくさんある。他クラスで受ける授業が多いというのは、完全に私の不満です。私はHクラスなのだが、後期に関しては自分のクラスで受けられる授業は2つしかなかった。そのうちオンラインになった授業が1つあるので実質1つしか自分のクラスで受けられない。1年Hクラスは午後授業が多いのに、どうして午前しか受けられない新聞奨学生をこのクラスにいたんだ？とも思う。1クラスだけ午前クラスを作るか、もういっそのことクラス単位での授業をなくしてしまった方がいいと思う。

販売店に関しては完全に差があるので一概にこれという予想は立てられなかったが、電話番号をはじめとした付帯業務などの押し付けや、予定に合わせて有休が取れず、月6日の休みで調整して大連勤になったりする話を聞いたことがある。

移動時間については、販売店から学校まで大体片道1時間以内と規定があるため実際あまり聞かない話だが、予備校から大学に進学し新聞奨学生を続けるときに問題になる。予備校と進学する大学の場所が大幅に変わる場合に通学時間が1時間を超える人も出てくるため、販売店の異動をする人が出てくる。

しかし、奨学会や今いる販売店の中で話がうやむやになってしまい、異動の話自体なくなってしまうパターンが多いという。

奨学会が相談に乗るというのは、アドバイザーという存在がいる朝日奨学会に入会している学生限定の問題だ。

私は入店してから一度もアドバイザーと会話したことないが、実際に相談しても「店による」の一言で終わるのだという。

この中で、一番辞めたい理由になっているのは学校と販売店と予想している。

## 4 前提となる考え

現在、新聞奨学会があるのは[朝日奨学会](#)、[日本経済新聞育英奨学会](#)、[読売育英奨学会](#)、[産経新聞奨学会](#)、[毎日育英会](#)の5社である。集金業務はコース選択の時点で決まなくてならないが、日本経済新聞は集金業務が任意。1カ月だけでも可能で、夏休みなどの学校がない月だけ集金をやる人もいる。

産経新聞は夕刊がないため、朝刊配達と集金業務のコースか朝刊コースしかない。

奨学会ごとに奨学金の差があるわけではないが、コースによって奨学金の金額が違ふ。朝夕刊配達+集金コースが一番高く、ついで朝夕刊配達コース、一番低いのは朝刊配達+集金コースだ。

ただ、産経新聞は元々のコースに夕刊配達がないため、各コースの奨学金が高めに設定されている。

## 5 検証結果

①まずは、インターネットで検索したおすすめの奨学会について。

[経験者がおすすめする新聞奨学生3選](#)、[おすすめの奨学会は？](#) を引用し、世間一般のおすすめ奨学会を調べてみた。

1 つ目のサイトではランキング付けされていた。

1 位は産経新聞。夕刊がないので授業の途中抜け出しがない上に、集金業務がないコースもあるため、時間的余裕がある奨学会とのこと。

2 位は朝日新聞。設備の完備がいいとある。

3 位は読売新聞。奨学生が多く、設備やサービスがいいとある。

2 つ目のサイトでは、産経新聞と毎日新聞は発行部数が少ない分、配達区域が広く、配達が大変とある。

読売新聞は業務外のことも押し付けられそう、朝日新聞は日々の配達が大変そうとある。おすすめは日経新聞だという。

現役の新聞奨学生はどうだろうか？

現在入会している奨学会と、入りなおすならどの奨学会がいいかをアンケートした。

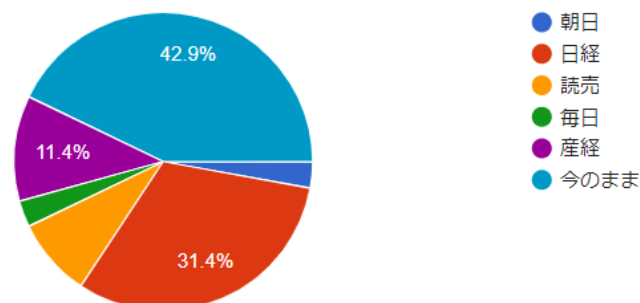
入会してる(してた)奨学会は？

36 件の回答



もし奨学会を入り直すならどこがいいですか？ コースは2019年度時点で、労働時間等もパンフレットやサイトの情報を参考にしてください。

35 件の回答



2019 年現在の制度でアンケートをとった結果、日経新聞が圧倒的だった。

『今のまま』の内訳は、日経が 7 人、読売は 4 人、朝日と毎日が 2 人ずつ、

産経は0人だ。

日経新聞は『制度がしっかりしている』『休みが多い』『集金がないため時間的損失がない』『読者が変わらない』といったものから、『他だと集金や営業をやらされると聞いた』といった付帯業務に関するものや、『他より経済的に体力がある』という回答があった。

読売新聞は『同じ奨学生との縁が今も続いて、一生の友達ができた』と、奨学生が多い読売新聞ならではの回答や、『配達が楽』という回答もあった。

朝日新聞は『制度がいい』『休日出勤が一切なく、不着(新聞が届かない)や誤配(違う新聞を届けてしまう)をしても、怒られるが学校に連絡がいかない』の他に、『アドバイザーの存在、頼れるかは別だが、他の奨学会にはない制度』との回答があった。

毎日新聞は『学校と両立できていた』と、業務の負担が少なかった子という回答があった。『医療費を全額負担してくれた』といった生活面の補助に関するものもあった。

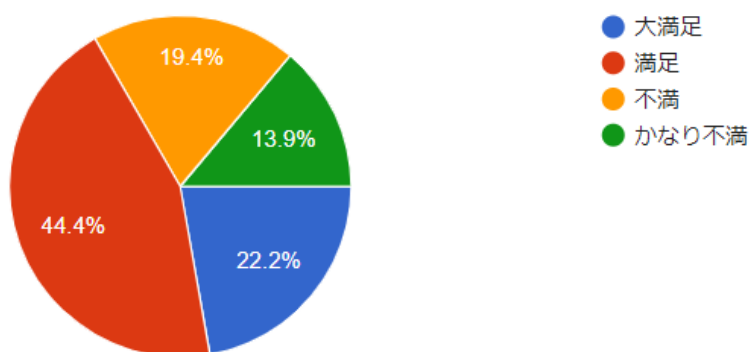
産経新聞は『夕刊がない』が多く『部数が少ないからすぐ終わりそう』といった回答があった。

その他に関しては『どこも同じ』『プライベートが充実していてしっかり寝れるところなら』という回答があった。奨学金の金額を気にしないのであれば、産経新聞の朝刊配達コースが一番希望に合うと思う。

②次は制度についてアンケートをとった。

販売店は抜きにして、奨学会の制度は？

36件の回答



半数以上が『大満足』『満足』と回答している。

『家賃の負担がない』『奨学金とは別で給料がもらえる』などの、金銭的な面で

助けられているといった回答から『奨学金の返済がない』『他の学生よりはお金がもらえている』『大学に進学して自立するという目的が叶えられた』『毒親から物理的に逃げられた』という回答もあった。主に金銭面に対する回答が多かった。

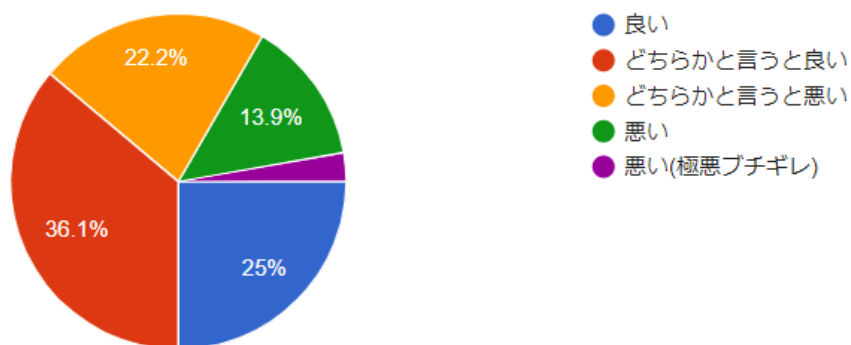
『不満』『かなり不満』の中には、『やりたいことができない』『奨学会職員に不信感がある』『給料の少なさ』『休日の少なさ』『偏見の目で見られる』といった回答があった。

③次は販売店の環境について。

販売店によって差はあるが、共通しているものがあるかが気になる。

### 販売店の環境は？

36 件の回答



グラフの紫の選択肢『極悪ブチギレ』は、遊び心で入れたら本当にいた。

『労働時間がパンフレットと違う』という回答だった。

『希望しない限り、集金や業務にない付帯業務をやらなくていい』『仕事以外の過度な労働がなかった』『6連勤以上がなく、有休が使える』『女子一人だがみんな優しい』『程よい量でやれる』という人柄や学業の配慮がいいという回答があった。

『未成年にお酒やたばこを勧めてくる』『寮住みで、同僚の一人に部屋に侵入された』

『拘束時間が長く、販売店によって待遇が違う』『シャワーやエアコンがない』

『陰口、社会適応的に問題がある社員がいる』『たばこなどの臭いがひどい』

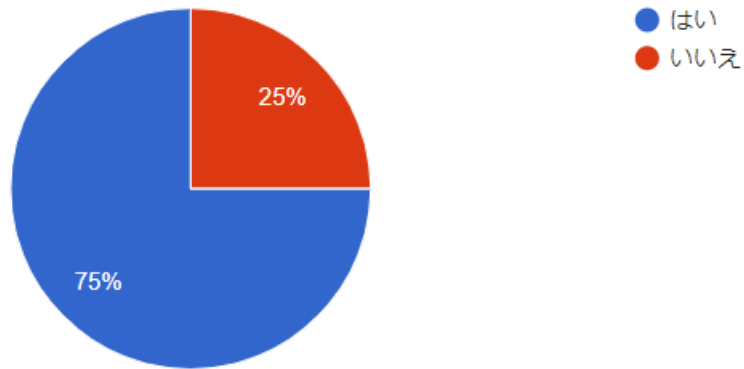
『経営思想が合わない』といった回答があった。

私の販売店はお店の上階に部屋がないため、全員アパートを借りて生活しているため、誰かを呼ばない限り勝手に侵入できないのだが、寮生活などの共同生活だと鍵がしっかりしていないと誰でも侵入できてしまうのがかなり怖いと感じた。

④次は、制度や販売店など総合的に見て、今までに辞めたいと思ったか、実際に辞めたかを聞いた。

奨学会を辞めたいと思ったことはありますか？(実際に辞めましたか？)

36 件の回答



3 / 4 が『辞めたい』『辞めた』と回答している。

「辞めたい」と言っている人しか見かけなかったため、もっといるのかと思ったが、私を含め、1 / 4 は辞めたいと思ったことがないのは意外だった。

『とにかくきつい』『肉体的・精神的につらい』『睡眠が十分にとれず、学業と両立できない』『年金や公共料金の支払いで貯金ができない』『プライベートの時間が少なすぎる』『普通にお金を借りて学ぶほうが楽だと思ったから』『最初がきつすぎた』『肉体も精神も追い込まれる』『シンプルにきつい』『サークル関連に参加できない』『人間関係』などの回答が多数だった。

『辞めたところでお金はどうにもならない』『辞めたいどころか死のうかと思っていた』『同じ店の奨学生同士で支えあった』『特に辞める必要がない』という回答もある。

## 6 分析

まず、制度自体にはあまり辞めたいと思う要素がないことが分かった。

奨学金が借りられ、業務をこなせば給料が出て、家賃無料で学校から1時間圏内に住めるという、すべてにおいておいしい話の裏側は『中途退会は今まで借りていた奨学金を一括返済しなければいけない』

これがだいぶ大きく、限界まで我慢して倒れてしまう人も多い。

また、プライベートに時間が圧倒的に少ないので、新聞奨学生側の予定に合わせなくてはならない上に、予定がなかなか合わせられず新聞奨学生側が毎回不参加になったりと、安定的な収入がある反面、時間的制約がかなり強い。

天候などの自然現象には逆らえない上、配達や集金ではお客さんの時間指定などで自分の予定を潰さなくてはならないため、肉体的にも精神的にもかなり苦痛である。

## 7 考察

今後、新聞奨学生制度というのは外国人留学生がどんどん増加し、日本人は減少する傾向になると思う。

『実家から逃れたい』『金銭的余裕がないが進学したい』といった理由以外の日本人奨学生がいるのと同時に、『金銭的に余裕があるが卒業後の借金がない社会人生活』といった人が入会して、かなりきつくて辞めてしまう人が多い。

金銭的余裕がない人や外国人留学生は、お金がないため奨学金の一括返済もできず、奨学生を辞める際は学校も退学せざるを得ない。留学生は母国に帰らなくてはならないため意地でも続ける人が多い。

その反面、実家のバックがある奨学生は、実家に助けを求め退会する人が多い。

日本発祥の制度だが、外国人留学生や金銭的余裕がない日本人を積極的に受け入れ、その他の日本人は販売店の人員穴埋めになると考えている。

## 8 まとめ

自分がちょっと嫌だなと思っていたことが、他の奨学生には『辞めたい』と思うレベルなことが多く驚いた。感じ方は人それぞれであることを再確認した。

大変な分、他の学生とはまた違ったことを得られるので、卒業まであともう少し頑張っていきたい。

現在、胃腸炎の薬で胃がやられてしまいダウンしてしまっているのですが、自己管理を今まで以上にしっかりし、楽しくやっていきたいと思う。